

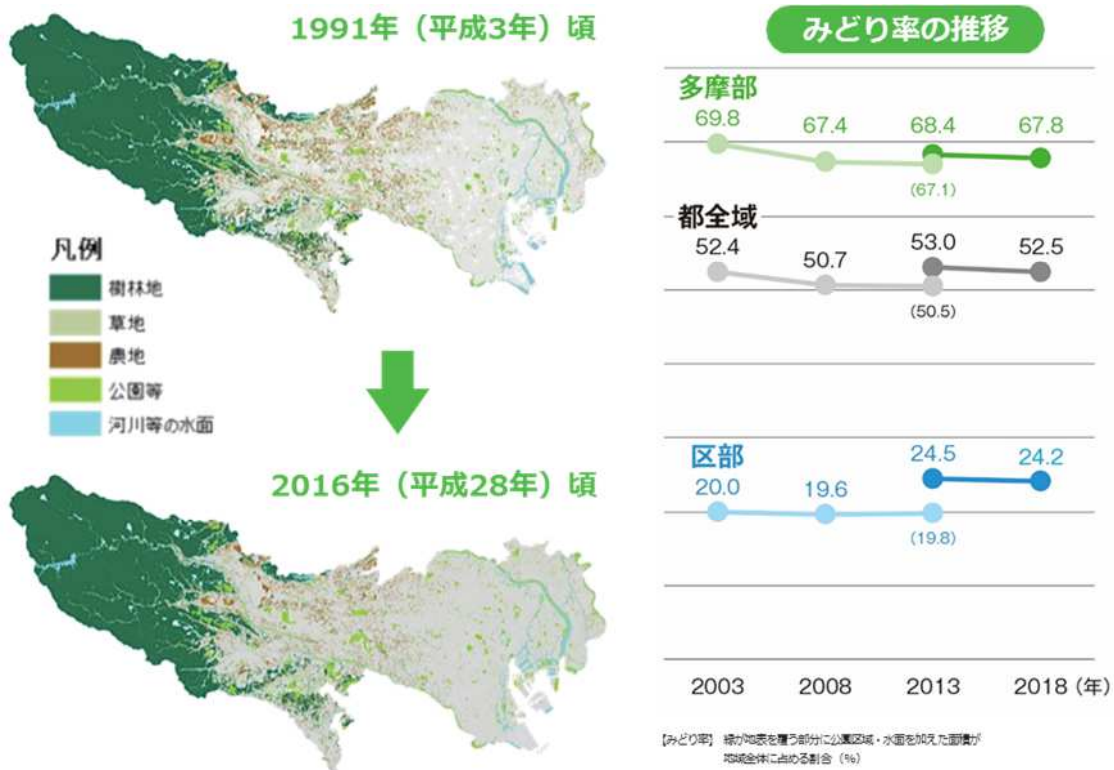


2. 新たな緑のプロジェクト「東京グリーンビズ」

東京都では、人々の生活にゆとりと潤いを与える緑の価値を一層高め、都民とともに未来に継承していくため、100年先を見据えた新たな緑のプロジェクト「東京グリーンビズ」を令和5年7月に始動しました。

2.1. 緑を取り巻く状況の変化

東京の緑は、減少傾向にあるものの、公園整備や生産緑地の保全、あらゆる機会を捉えた緑の創出等により、近年は横ばいで推移しています。



一方、近年の緑を取り巻く状況に目を転じると、気候変動への適応など「社会的な課題解決への緑の活用」や、新型コロナを契機に「開放的な緑空間等へのニーズ」が高まるなど、都市に求められる機能や人々の価値観も変化してきています。令和4年12月に開催されたCOP15では、「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」が採択され、ネイチャーポジティブの実現に向けた世界目標が設定されました。海外都市においては、グリーンインフラをはじめとした様々な取組が行われるなど、世界的にも自然環境と都市機能の調和がこれまで以上に重要視されています。



<p>世界的な気温の上昇 激甚化する自然災害</p>	<p>緑の活用による 社会課題の解決</p>	<p>海外における緑の活用事例 (シンガポール)</p>  <p>(出典) PUB ビシャンパーク ハンフレット</p>
<p>感染症の世界的流行 人々の価値観・ 行動の変化</p>	<p>ゆとりある空間に 対する ニーズへの対応</p>	<p>海外における開放的な緑空間の事例 (ニューヨーク)</p>  <p>(出典) フライアントパークウェブサイト</p>
<p>世界目標である 「ネイチャーポジティブ」の 実現</p>	<p>生物多様性の 拠点形成</p>	<p>ネイチャーポジティブ実現のイメージ</p>  <p>(出典) 環境局「東京都生物多様性地域戦略」</p>
<p>サステナブルな 素材である 木材需要の増加</p>	<p>森林の多面的な 機能の発揮</p>	<p>世界的潮流の木材建築</p>  <p>グラン・パレ・エフェメール (パリ)</p>  <p>ヘルシンキ中央図書館 (ヘルシンキ)</p> <p>(出典) ヘルシンキ市ウェブサイト</p>
<p>世界的な 食料需要増加 資源の有効活用</p>	<p>持続可能で 多機能な農業</p>	<p>主な都市農地の機能</p>  <p>新鮮な農産物の供給</p>  <p>農業を通じ学ぶ機会を提供</p>  <p>身近な農業体験交流の場</p> <p>(出典) 農林水産省ウェブサイト</p>

2.2.1. 「東京グリーンビズ」

こうした緑を取り巻く状況の変化へ対応していくため、これまでの取組に加え、新たな施策も構築し、東京の緑を「まもる」「育てる」「活かす」観点から取組を強化していきます。

100年先を見据えた“みどりと生きるまちづくり”「東京グリーンビズ」を、都民をはじめ様々な方々と一緒に進めることにより、取組の輪を広げ、「自然と調和した持続可能な都市」へと進化させていきます。



東京の緑を

「まもる」「育てる」「活かす」取組

これまでの緑に関する取組を強化

緑の機能を最大限発揮



ふれあいの場の形成、
地球温暖化防止、生物多様性、
防災力向上、景観の形成など

様々な主体との連携・協力



一人ひとりが担い手となり、
緑に親しみ・楽しみながら、
育む

100年先を見据え、取組の輪を拡大し、
東京の緑の価値を高め、未来へ継承していきます。

「まもる」取組

- 地域に根付いた緑（屋敷林等）を守る
- 豊かな自然を有する地域を保全
- 樹木を残す新たな仕組み
- 水道水源林の保全管理
- 持続可能な森林循環を促進

「活かす」取組

- 緑・自然が有する機能を活用
「グリーンインフラ」
- 公園の魅力を高めてTOKYOの顔に
- 地域の名所として緑を活用
- 豊かな自然の魅力を発信
- 緑の多様な価値を活かす



「育てる」取組

- みんなで一緒に緑を育てる
「東京グリーンビズ・ムーブメント」
- まちづくりにあわせた緑の創出
- 豊かな緑や開放的な広場を創出
- 緑と水のネットワーク化
- まちのシンボルとなる緑豊かな空間を創出

※令和6年度予算案にて実施予定の取組も含まれます。



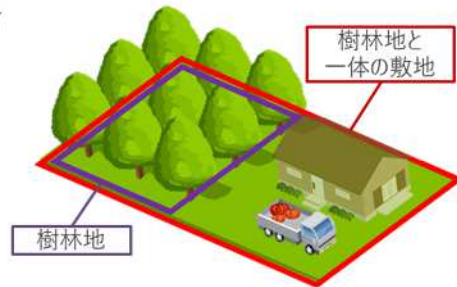
2.2.2. 緑を「まもる」取組

屋敷林や農地など地域に根付いた緑や、豊かな自然を有する地域等を「まもる」取組を推進し、今ある貴重な緑を残し、未来へ継承していきます。

地域に根付いた緑（屋敷林等）を守る

◆ 屋敷林等の民有地の緑の保全

- 相続等に即応できるよう、基金を活用し、区市町村が屋敷林等を買取るために新たに支援を実施（「特別緑地保全地区買取等補助制度」の創設）
- 敷地内に屋敷林等がある場合、樹林地と宅地等を一体の敷地として買取ることで、屋敷林を生かした公園緑地等の整備を促進（「緑あふれる公園緑地等整備事業」の拡充により区市町村への支援を強化）
- 所有者の名前など屋敷林の歴史を残す取組を実施



※樹林地の規模等、一定の要件を満たす必要あり

まとまった樹林地を生かした公園整備のイメージ

◆ 生産緑地・農地の保全

- 区市による生産緑地等の買取り（公園整備、農的利用）支援
- 長期貸出しを行う農地所有者への支援を、生産緑地に加え、農業振興地域等にも拡大

樹木を残す新たな仕組み

◆ 「ツリーバンク」の創設

- 公園等で育ち、親しまれてきた樹木を、新たな場所へ移植することで、後世へ継承
- 移植が必要な樹木を受入・保管し、新たな整備等で活用する仕組み「ツリーバンク」を創設。移植の際は、必要に応じ、樹木医等の専門家の意見を聴取
- 都立公園のバリアフリー化等の機能更新、海上公園の整備、都営住宅の建替え等で活用
- 都市開発諸制度等の適用案件で、ツリーバンクの樹木の活用を検討





豊かな自然を有する地域を保全

◆ 保全地域の指定拡大・公有化

- 生物多様性を回復軌道に乗せるため、保全地域の指定面積の目標値を引上げ
- より多様な緑地の保全に向け、貴重な湿地等の水辺環境を有する緑地の保全を強化する新たな仕組みを導入



保全地域の指定面積の現状と目標

◆ 保全地域の管理の強化

- 生物多様性等の取組を総合的に行う東京都生物多様性推進センター（仮称）を新設し、区市町村やボランティア等と連携した効果的な管理を実施

◆ 保全地域等の質の維持・向上

- 保全地域の植生回復・樹林再生を集中的に展開（樹勢が弱った樹林や老木化した樹林を林床が明るく若い樹林へ再生）
- 保全地域特有の希少種の保全や外来種対策を実施



保全地域の樹林再生

持続可能な森林循環を促進

◆ 伐る・使う・植える・育てる森林循環の促進

- 2024年度から新たな計画の下で伐採等の事業を実施するほか、ドローン等を活用し、立木調査を効率化
- 花粉の発生源対策の強化を国に要請するとともに、少花粉スギ等への植替や利用期を迎えたスギ・ヒノキ林の伐採を推進

◆ 林業の担い手確保と生産性向上

- 出向型研修、経営診断など、林業技術者の育成に向けた多様な支援を展開
- 先進技術を搭載した林業機械の導入支援



先進的な林業機械



2.2.3. 緑を「育てる」取組

公園整備やまちづくりにあわせた緑の充実に加え、緑に関する情報共有や様々な主体との連携など、緑を「育てる」取組を推進し、緑を感じ、ふれあい、親しむ機会を創出していきます。

みんなで一緒に緑を育てる「東京グリーンビズ・ムーブメント」

◆ 緑に関するプラットフォームの作成

- 「東京グリーンビズマップ」を作成し、ウェブサイト上で緑に関する情報を一体的に発信
- 都民が参加できるイベント情報等を掲載し、マップを通して様々な主体の参画を促進



「東京グリーンビズマップ」のイメージ

◆ 緑に親しみを育てる仕組み

- 「TOKYOストリートツリー（仮称）」を構築し、街路樹・樹木の情報をマップ上に表示
- お気に入りの並木の登録や写真投稿を可能とし、参画を促進
- 季節ごとの花の鑑賞スポットやグリーンインフラ等の場所を表示

◆ 様々な主体との連携

- 都民や民間企業とともに気運を醸成するため、シンポジウムの開催や緑に関連する各種イベントへの出展
- 公園での植樹など、様々な参画の機会を創出

公園整備を加速

◆ 公園の用地取得や整備を加速

- 雑木林など樹林地からなる丘陵地公園、林試の森公園等の整備を推進
- 政策連携団体を活用し、都立公園の用地取得体制を強化
- 海の森公園、有明親水海浜公園など海上公園の整備を推進（海の森公園は2024年度末グランドオープン予定）



丘陵地公園
(野山北・六道山公園)



有明親水海浜公園



まちづくりにあわせた緑の創出

◆ 都市開発にあわせた都心の緑の創出

- バイエリアにおいて、人々が憩う緑の空間として立体的な緑を充実
- 開発による新たな緑と既存の緑の連なり・まとまりを誘導し、緑豊かな空間を創出



ポートシティ竹芝



立体的な緑化のイメージ

まちのシンボルとなる緑豊かな空間を創出

◆ 道路・公園・街区が一体となったウォカブルな空間の創出

- 新宿グランドターミナルの整備等と連携し、西新宿地区を人中心の都市空間に再編
- 憩い・にぎわい空間の創出に向け、都庁周辺の空間再編を推進



西新宿まちづくりの将来イメージ

◆ 四季を彩る国内最大級の花回廊(トウキョウ・フローラル・パサージュ)を創出

- シンボルプロムナード公園の延長・連続性を生かし、大規模で一体的な花の名所として魅力とにぎわいを創出
- 民間との連携により、立体性・連続性のあるウォカブルな空間を形成



都庁周辺の将来イメージ

緑と水のネットワーク化

◆ 公共空間等を活用した緑や水のネットワーク形成

- 東京高速道路（KK線）上部空間を緑豊かな歩行者空間として再生
- 外濠の水辺再生により都心で働く人々への癒しの場や品格ある景観を形成



KK線の位置図



2.2.4. 緑を「活かす」取組

グリーンインフラの導入や観光資源としての活用、木材利用など、緑を「活かす」取組を推進し、都市の中に緑の持つ多様な機能を導入していきます。

緑・自然が有する機能を活用「グリーンインフラ」

◆ 先行プロジェクトの実施

- ・公共用地で雨水流出抑制に資するグリーンインフラを実装
- ・雨水貯留浸透機能の効果を検証
- ・取組の周知により、区市町村、民間等による導入を促進



雨水浸透緑地帯（レインガーデン）

◆ 区市町村の取組への支援を拡充

- ・雨水流出抑制施設やレインガーデン等の整備への補助を拡大
- ・取組事例や効果の情報発信等への支援を実施
- ・区市町村の広報活動や出前講座等による気運醸成を支援



公共空間のレインガーデン整備事例（世田谷区）

◆ 河川や公園等での導入

- ・河川沿いに加えて旧河川敷や調節池敷地の緑化、既存の管理用通路の透水性舗装化等を検討
- ・公園や道路、都営住宅・公社住宅での雨水流出抑制設備・レインガーデン等の導入を推進
- ・屋上や壁面、工事中仮囲いでの緑化など立体的な緑化を推進



壁面緑化のイメージ

◆ 都市開発とあわせた導入

- ・都市開発におけるレインガーデン・緑地等の整備誘導を検討



旧河川敷の緑化イメージ



公園の魅力を高めTOKYOの顔に

◆ 花や水景等を活かした公園の魅力創出

- 都立公園リフレッシュプロジェクトとして、花の景観の創出を推進
- 新たな水景施設の整備
- 四季を通じた花と光・アートの実演を実施
- 公園の花や植物の情報を発信



花の景観の創出イメージ

◆ 公園を舞台にしたプロジェクションマッピング

- 公園での新たな夜間の魅力を創出するイベント等の実施を検討



デッキ設置イメージ

◆ 緑に囲まれて過ごせるポイントづくり

- 公園の樹林の中に休憩できるデッキ等を設置

地域の名所として緑を活用

◆ 東京の緑の名所の発掘・発信

- 緑溢れた隠れた観光資源を緑の名所として発掘・紹介し、緑を感じ親しむ機会を創出
- 生物多様性に配慮した地域に愛される緑の名所の創設・保全に取り組む区市町村を支援



名所イメージ（荒川堤の五色桜）

豊かな自然の魅力を発信

◆ 自然公園等の活用

- 東京の多様な自然を知る小学生向け参加型プログラムの実施
- 自然公園や保全地域で樹木の維持管理を行い、利用環境を確保
- 自然の魅力をデジタル技術を活用して発信するミュージアムの構築に向けた検討、D Xコンテンツの先行発信を推進



小学生向けプログラム

緑の多様な価値を活かす

◆ 森林循環につながる多摩産材の活用

- 映像等も活用し、多摩産材等のPRを実施

◆ サステナブルファイナンスの活性化

- 循環経済への移行や生物多様性の保全・回復を推進する「循環経済・自然資本等推進ファンド（仮称）」を組成



とうきょうの木 魅力発信拠点
TOKYO MOKUNAVI



2.3. 区市町村における緑施策の重要性

街区公園や特別緑地保全地区など、都民に身近な地域の緑の保全・創出は、区市町村が主体となって行われています。都内の各種公園緑地の合計約9,000haのうち、約4,000haは区市町村立公園です。

区市町村は、東京の緑に関してとても大きな役割を担っており、人々の生活にゆとりと潤いを与える緑の価値を一層高め、都民とともに未来に継承していくためには、区市町村による緑施策が大変重要です。

今後、都は、広域的な視点での緑施策を推進すると共に、区市町村が取り組む地域の緑施策を、緑あふれる東京基金等を活用し、より一層、支援していきます。